

発刊にあたって

鹿児島県立短期大学地域研究所は、地域の諸問題に関して、人文・社会・自然の各領域にわたる研究・調査を行い、もって地域の生活と文化の向上に寄与することを目的に、1974（昭和49）年に設立された。以後、地域の諸問題に関しての研究・調査活動を行ってきた。こうした研究・調査の成果は毎年3月、研究論文集『研究年報』に発表され、また、地域での講演会活動を通じて地域社会への還元がはかられている。地域研究所の事業活動の状況については年2回発行される「くろしお」を通じて報告されている。

地域研究所の研究員は、鹿児島県立短期大学に所属する教員によって構成されている。鹿児島県立短期大学は、人文科学、自然科学及び社会科学の3分野にわたっている。

こうした研究所の特徴を活かしつつ、鹿児島の地域社会が直面する問題を学術的に解明し、問題解決のための政策的対応の在り方を探ろうとする試みは地域研究所発足以来続けられてきた。しかしながら、地域研究所が研究・調査の対象としている鹿児島の地域社会は、近年の国際化、情報化の進展に伴う地域社会の変化によって、新たな地域社会が抱える問題への対応、また、高齢化や過疎化という深刻な地域問題への対応が求められるようになってきた。こうした社会的変化に対応し、また、地域研究所が掲げる目的を達成するために、研究・調査の在り方について議論を重ね、従来は個人的に行う傾向にあった研究プロジェクトを一つの特定期域を定め、本学の地域研究所の特徴を活かした3分野（人文科学・自然科学・社会科学）にわたる総合的な研究プロジェクトをスタートさせた。その第1回の総合プロジェクトの成果は『佐多町の社会と生活文化』として2年前に報告され、各方面からの評価を受けた。今回は地域研究所第2回目の総合プロジェクトとして北薩地方（大口市・菱刈町）を対象地区に取り上げた。

大口市・菱刈町は、鹿児島県の最北部の伊佐地方に位置し、熊本県、宮崎県に隣接した、県内屈指の米作地帯である。大口市・菱刈町を含めた北薩地域も高齢化や過疎化の進展による深刻な問題を抱えている。こうした問題を抱えた大口市・菱刈町ともに、高齢化対策、地域活性化のためのさまざまな取り組みが行われている。こうした地元関係者の熱心な地域政策への取り組みは、「地域社会に生活・文化の向上に寄与する」という目的を掲げ、研究・調査を続ける私たちにとって大いに意義のある研究・調査を行うにふさわしい地域である。

本報告書は、地元関係者の地域社会の発展にかける熱意と、また私たちの調査協力依頼に快く応じ、いろいろ便宜を図っていただいただけでなく、貴重な資料や情報を提供していただいたご協力に支えられて、研究員の学術的見識が結実したものである。本報告書が、大口市・菱刈町の今後の発展に少しでも寄与することができれば幸いである。地元の御期待にどの程度応えることができたかは、真摯なご批判をまたなければならない。

1998年3月

鹿児島県立短期大学
地域研究所長 釜 田 忠